今治明徳短期大学

歩き遍路体験学習レポートから ③

「お接待のありがたさ」

平野 貴子

「楽しそう。歩いてみたい」という想いから四泊五日の歩き遍路は始まりました。

バスで岩本寺に着いたときはまだ眠たくて、このまま寝ていたいと思いました。お昼前には足がだるくなり、五日間歩けるか不安でした。最初の宿に着いたとき、先生方から「お疲れ！よく頑張ったね」と声を掛けてくれ泣きそうになりました。

二日目は距離が一番長く、六時出発だったので起床は五時。五日間歩くと決めていたのに、四十キロも歩くと思うと「家に帰りたい」。長い距離なので先達の後ろについて行こうと決め、なんとか二日目も歩けました。

三日目は先達の担当でした。遍路道は思ったより多く、道を間違えたこともありました。険しい山道では男の人に先達役を代わってもらうなど、みんなの協力のおかげで金剛福寺にたどり着けました。先達は休憩する時間、場所を決めなくてはなりませんので、自分が前を歩きます。後ろから着いていくより疲れ、先達の大変さも知ることができました。

一・二日目は歩いていて「しんどい、暑い」と思っていたけど、三日目からは楽しいと感じるようになりました。足摺岬からの景色は海ばかり、すごくきれいでした。三・四日目は遍路道がたくさんありました。アスファルトの道と比べ山道は土が軟らかく、木や土の匂いがして歩くことが楽しいと感じました。遍路道は険しい山もあったけど自然を感じることができ、これからも残してほしいと思います。

最後の日は、みんなと歩いているのが楽しくて、今日で終わるのが寂しく、もっと歩きたいと思いました。

遍路の装束を縫うのは思ったより手こずりましたが、自分たちが作ったものを着て歩くのはいいなぁと思います。

長かったような短かったような五日間。「大丈夫？」と声を掛けてくれた人、遅れている人を引っ張って一緒に歩いた人。みんなが協力し助け合い、地元の人の温かいお接待があったので歩けたし、貴重な体験ができたと思っています。五日間歩いて何か変わったか—と考えてみて、自分自身変わったところはないような気がします。ただ、もっと歩いていたいと思います。

いろいろな人からお接待を受けて今まで以上に人の心の温かさ、優しさを知り、自分も機会があればお接待をしたいと思いました。

「参愛遍路」

緒方 太

「五日間くらいどうってことないだろう」と考えていました。友達と話したり、景色を見ながら余裕で歩けるだろうと思っていました。しかし、実際は違った。本当にしんどかった。これほど足が痛くなったことなんてなかったし、一歩一歩が辛かった。ただ、その一歩を力強く繋いでくれた感動は計り知れないものでした。

日頃何気なく車の中から眺めるだけの景色や風景に、ここまでの感動は生まれません。自分の足で歩き、目指す場所まで来たからだと思います。もう歩けない、歩きたくないと思っているときに与えられた感動は自分を支え目的地を目指す原動力になりました。

今回の旅で、友達という存在の大きさ、大切さがあらためて身にしみて分かりました。友達と支えあいながら目的地を目指すことの素晴らしさがよく分かった気がします。

本来お遍路は一人で歩くものだと思うのですが、もし今回の遍路が一人旅だとしたら果たして最後まで歩ききれたかどうか…まぁ、自信が無いわけではありませんが…。とにかく辛いとき見せてくれた友達の笑顔には、確かな心強さを感じました。ということもあって今回のタイトルを「参愛遍路」にしたのです。

意味は「分かち合い」「触れ合い」「助け合い」、この三つがバランスよく交差しあえた旅だったんじゃないかと思います。三つの「あい」だから「参愛」。

その後何度かお遍路さんを見かけました。自分は車の中にいたので声をかけたりは出来ませんでしたが、自然と心の中で無事に旅を終えることができますようにと願っていました。

人それぞれ、全てのお遍路さんが自分みたいに足が痛いわけではないのだろうけど、何故か「足は大丈夫なんだろうか」と心配してしまいます。多分、足が痛いときに歩いた辛さが、それほど大きく自分の中に残っているんだろうな…と。いつか、すべての札所を歩いて回りたいのですが、あの痛みは二度と味わいたくないとも思います。

いろいろな道を歩きましたが、どの道もそれぞれ意味を持ち、それぞれの場所へつないでくれる大切なものと思いました。自分自身もそうだと思います。いろいろな事を考えながら進んで行くのです。分からないこともあるだろうし、辛いこともある。どうしようもないこともあると思います。ただ「道は続いているんだなぁ」と思います。あきらめずに進み、たどり着くことが出来れば大きな感動が待っているんだ—と。

歩く（生きる）ことを止めてはいけないと思います。一歩一歩には意味があるということを忘れず、大嫌いな勉強も頑張りたいと思います。ありがとうございました。

復元されたばかりの旧・遍路道を歩く明短生

先達の大変さ知った

友達の笑顔 心強く

ヘンロ屋「しんきん庵」で高知県大月町および幡多信用金庫職員と記念撮影